

スタッフインタビュー

Q1:なぜ言語聴覚士になろうと思ったのですか？

私自身が「吃音症」という音声言語に関する悩みがあり、当初は自分の吃音症状を治療したい、自分と同じように悩む方々の支援をしたいという思いで言語聴覚士を目指していました。この職種について学んでいくうちに、構音障害、高次脳機能障害などの様々な疾患があることを知り、自分自身が悩みを抱える立場であるからこそ理解できることもあるのではないかと思います、より一層言語聴覚士として働く思いが強くなりました。



河野 匠

(言語聴覚士 2022年4月入職)

Q2:大垣徳洲会病院を選んだ決め手は？

学生の時の臨床実習がきっかけで、急性期病院で働く事に魅力を感じていました。当院の見学説明の際に、自身の希望する急性期という分野だけでなく回復期から退院後の関わりまで幅広く患者様と関わることが出来ると知り、自身が希望した分野以外にも学ぶことが出来ると思いエントリーしました。

Q3:仕事をしてみて嬉しかったことはなんですか？

実際に患者様やご家族と関わるようになり、直接「ありがとう」という言葉を頂けたことが嬉しかったです。また働いていく中で他職種の方々から言語聴覚士としての意見を求められることが実際に専門職として働いている実感が得られ非常にやりがいを感じています。今はまだ知識も技術も不足していますが、チーム医療の一員としては働けるように日々自己研鑽に励んでいきたいと思っています。

Q4:新人教育はどのようなものでしたか？

医療従事者としての基礎的な知識から各分野の専門知識、また社会人としての接遇など多岐にわたり指導していただきました。模擬患者を相手にした実技試験もあり、臨床に望む上で必要な知識と技術を学ぶことが出来ました。入職後は定期的な面談があり、自身の目標や目標達成に必要なことなど様々な助言をいただき、自身のステップアップに繋がりました。日々の研修、プリセプターやバディという新人スタッフを支える存在があり教育体制は非常に充実していると感じています。

Q5:就職希望の方へメッセージをお願いします。

大垣徳洲会病院リハビリテーション科では、「急性期から在宅まで」という一貫したリハビリテーションを経験する事が出来ます。以前の私は急性期での業務に魅力を感じていましたが、現在は回復期病棟で非常にやりがいを感じています。幅広い分野、多くのセラピストとの関わり、その中で自分に合った臨床現場を見つけていくことも出来るのではないかと思います。

リハビリテーション科のスタッフは若い方が多く、新人スタッフにとって年齢の近い先輩も多い環境になります。他職種での意見交流もしやすく連携が行いやすい環境でもあります。少しでも興味のある方はまず一度病院見学にいらしてください。お待ちしております。